

1 大会開催にあたっての課題

- **スポーツ振興による地域活性化**
 - ・ スポーツによる経済の活性化
 - ・ 多様性を理解し合える共生社会の実現
 - ・ スポーツに関わる多様な人材育成
- **効率的な大会運営**
 - ・ 大会運営の効率化による負担の軽減
 - ・ 民間や県外施設も含めた施設の有効活用
 - ・ 様々な収入確保策の検討

2 山梨の目指す新たな大会のあり方

基本的な考え方

多様な主体と協働し、従来のやり方にとられないサステナブルな新しいスタイルの大会

取組内容

(1) 豊かなスポーツライフの確立

① スポーツを育み地域に豊かさ創出

- ・ 大会後も競技団体や民間企業との連携によるスポーツ大会の開催により、運営ノウハウの蓄積
- ・ 来県者増による地域経済への波及により、スポーツ施設を持続的に維持管理
- ・ 観光等の関連する産業等と連携し、スポーツを楽しむ場としての山梨の魅力の積極的な発信とともに、スポーツツーリズム等を活用し、認知度を高めて本県への誘客を促進
- ・ 大会を契機にスポーツの裾野を広げ、地域コミュニティの維持や心と体の健康増進など、スポーツによる豊かさの創出

② 共生社会の実現に向けた多様な出会いの機会創出

- ・ 国スポから全スポに盛り上がりが続くような方法により、パラスポーツに触れる機会の創出
- ・ 様々なスポーツや人と人との出会いを通じて、多様性を理解し合える機会の創出

(2) 「みらい」につながる人材創出

① アスリートセンタードの取組

- ・ 成績等の成果にとられず、アスリートセンタードの視点による競技力向上を図り、選手が存分に能力を発揮できる環境づくり
- ・ 優秀な選手や指導者等の多様な人材を地域で育成、強化できる環境の整備
- ・ トップアスリートや指導者の高度な指導を子ども達が受けることで、将来国際大会など大きな大会で活躍できる選手の育成

② トップアスリート等の県内定着

- ・ リニア開業による交通アクセスの優位性や本県の生活環境の良さ等を生かし、練習拠点としてのブランド確立や地元企業との連携を通じて、トップアスリート等の県内定着の促進
- ・ トップアスリート等の県内定着による指導力の向上、世界に通用するアスリートの育成

(3) 持続可能な大会運営

① 次代を志向した大会の簡素・効率化の検討

- ・ 総合開・閉会式の簡素化（屋内開催、オンライン配信） ※
- ・ 運営管理や輸送交通等の多様な場面において、AIやMaaS等の最新技術を活用した民間提案を積極的に取り入れ、効率的な運営の実施
- ・ ノウハウ等の共有や情報開示による多様な運営方法の実施
- ・ 県民や企業への大会開催機運の醸成によりボランティアを増員し、競技運営を円滑に実施
- ・ コロナ禍での全国に先駆けた施策の実績等を生かし、課題への迅速かつ的確な対応の実施
- ・ 市町村や民間も含めた既存施設の有効利用
- ・ リニア等の交通ネットワークを利用し、他県と連携した県外施設の活用

② 様々な収入確保策の検討

- ・ 企業協賛金、物品提供、募金
- ・ 各競技会のネーミングライツの募集 ※
- ・ クラウドファンディングの活用
- ・ ふるさと納税、企業版ふるさと納税の活用
- ・ ユニフォーム等、企業広告の掲示による新たな収入増加となる取組 ※
- ・ アウトドアスポーツ等本県の特徴を生かした集客のあるスポーツ大会を国スポに併せて開催 ※
- ・ プロによる記念試合の開催 ※
- ・ 競技開催に合わせて、飲食や物販の出店を募り、イベントとして地域一体で集客する取組

【※日本スポーツ協会等との調整が必要】

目指す大会の成果

県・市町村・県民・民間企業・教育機関・関係団体のオール山梨の取組により、文化としてのスポーツを地域に定着させ、持続可能なスポーツの振興及び共生社会の実現を図るとともに、スポーツツーリズムによる地域経済活性化の好循環を生み出す